

雜 報

同窓會々計報告

目 次

- I. 昭和元年度通常會計報告
- II. 講演集會計報告
- III. 別途積立金報告
- IV. 二十週年紀念事業資金報告
- V. 大正十四年度基本金報告
- VI. 昭和元年度基本金報告

以 上

I. 昭和元年度通常會計報告

收 入 ノ 部

摘 要	金 額
前年度ヨリノ繰越金	331,215
14 年 分 會 費	15,000
終 身 會 費	240,000
終身會費 殘 額	25,000
15年度通常會費 (628口)	1,884,000
15年度入會金 (601口)	3,606,000
15年度入會金1期介(27口)	54,000
昭和2年度分通常會費	36,000
昭和2年度分入會金	59,000
預 金 利 子	108,710
同窓會報讓與代	74,100
集金手数料(校友會ヨリ)	20,640
雜 收 入	24,970
合 計	6,478,635

支 出 ノ 部

摘 要	金 額
囑 托 手 當	85,000

囑托及小使年末謝禮	13.500
會報14號印刷代	278.800
全 上 抜 刷	8.960
全 上 送 料	31.600
全 上 正誤表	17.500
小 包 レッテル	7.000
會報15號印刷代	610.000
全 上 抜 刷	20.640
全 上 送 料	38.000
會員名簿印刷代	150.190
全 上 送 料	15.000
集 金 手 數 料	141.480
會 費 督 促	10.060
會費督促狀及集金委託書印刷料	8.800
郵便切手及葉書代	23.800
夏季講習會通知費	5.260
同窓會總會通知費	16.920
新舊卒業生懇親會補助	14.000
弔 電	.600
同 窓 會 備 品	12.300
香 奠 花 輪 旅 費	54.800
カビネ形引伸20枚代	10.000
原稿用紙18.000枚代	45.000
振替用紙及振替拂出用紙	6.200
振替拂出手數料	1.680
雜 費	33.340
二十週年記念事業資金中へ繰越	3.734.000
別途積立金(終身會費)	265.000
講演集及彙集同窓會買入	188.630
講演集會計へ貸	206.000
計	6.054.060
昭和2年度繰越	424.575

II. 講演集會計報告 昭和二年三月末日現在

支出ノ部

摘 要	金 額
明文堂へ講演集1200部代拂	3,648.000
全 上 本校マテ送料	47.150
蠶絲雜誌社へ彙集代拂	978.000
實費配布送料及通信費	238.120
合 計	4,911.270

收入ノ部

摘 要	金 額
實費配布講演集及彙集代入	3,718.540
全 上 未收入金	1,004.000
同窓會へ納本代入	188.630
合 計	4,911.270

備 考

收入部ニ於ケル未收入金1004圓ハ至急請求シ入金ヲ計ルベキモ一時昭和元年度通常會計ヨリ206圓借入、明文堂ヨリ講演集1400部檢印料トシテ798圓ヲ受入、合計1004圓ヲ以テ之レヲ補ヒタレバ追テ入金整理次第改メテ報告スルコトセリ。

III. 別途積立金報告 (終身會費)

摘 要	金 額
大正14年度積立高	340.000
昭和元年度積立高	265.000
合 計 現 在 高	605.000

IV. 二十週年記念事業資金積立金報告

摘 要	金 額
大正14年度積立高	3,322.000
全 上 利 子	247.000
昭和元年度積立高	3,734.000
合 計 現 在 高	7,303.000

備 考

別途積立金及二十週年記念事業資金ハ一部分上田市信用組合ニ定期預金トシテ大

部分ハ次年度早々公債ニ拂換ヘル豫定ナリ。

V. 大正十四年度(自¹⁴年⁴月 至¹⁴年⁹月)基本金報告

摘 要	金 額
前年度繰越高	3,146.540 ^円
内譯 { 六三銀行定期預金	2,400.000 ^円
{ 全 上 當座預金	746.540
本期間收入利子	71.760
合 計 現 在 高	3,218.300

VI. 昭和元年度(自大正¹⁴年⁹月 至昭和²年⁴月)基本金報告

摘 要	金 額
前年度繰越高	3,218.300 ^円
内譯 { 定 期 預 金	2,500.000 ^円
{ 當 座 預 金	718.300
本期間收入利子	322.860 ^円
但シ 21.620ノ諸税差引高	
加美寄附海外留守資金	1,000.000
全 上 利 子	70.360 ^円
但シ 5.240ノ諸税差引高	
合計期末現在高	4,611.520

内譯 { 六三銀行定期預金	2,000.000
{ 十九銀行定期預金	1,000.000
{ 六三銀行當座預金	541.160
{ 十九銀行定期預金	1,070.360

■ 母 校 近 況

◇佐藤利一教授 は只今獨逸 (Bei der Japanischen Botschaft, Hildebrand, str. 25, Berlin, Dentschland.) に於て御研究中なるも近く巴里に御轉學の由であります。

◇原田教授 は四月二十八日神戸解纜氣象及物理學研究の爲め渡歐の途に就かる目下獨逸(佐藤教授と同)に御滞在中です。

◇樋口琢磨氏(蠶五) は新學期より長野蠶業試験場技師として御榮轉せられ新設病理部主任さし御勤務の事となり更に母校とは佐藤教授在外研究中講師として蠶體病理學を擔任

せられて居ります。

◇次の諸先生は目下講師として囑託せられ夫々の學課を御擔任であります。

丸 山 胤 炳 講 師	擔任學科	數 學
中 村 喜 平 講 師	〃	物 理 學
石 井 爽 講 師	〃	商 業 通 論
梶 間 百 樹 講 師	〃	氣 象 學

◇母校助教授田中定男氏(絲九) ば五月二十三日心臓癱痺を以て急死せられました。誠に哀悼の情にたへません茲に謹んで御通知申上ます。

◇窪田潤氏(絲十二) は目下製絲部に於て研究中であります。

◇佐瀬旭氏(蠶六) は母校研究生として御研究の處三月、民國東南大學蠶桑學科の副教授として御榮轉せられました。(中國、上海鎮江郵政局轉中國合衆蠶桑改良會鎮江青蠶製種場内)

◇本年新造氣鋭の助手として母校に勤務の方は次の七名です。

養 蠶 部 = 依田彌亮氏 野口清也氏

製 絲 部 = 浦上岩男氏

物理實驗室 = 廣瀬 廣氏

蠶絲化學實驗室 = 山崎 壽氏 堀 久三郎氏 吉松千秋氏

◇同窓會會計事務の爲め本會囑託となつて居ました大原賢氏に代り原田愛子氏を新に委囑致しました。

◇本號の口繪の通り製絲部には研究室より生れた新式の製絲機械が敷設せられました。屹度斯業の前途に一光明を投げる事でせう。

◇母校に異彩を添つて居ります蠶絲化學實驗室は「レイヨン」工場を除き完成致しました總ての新しい雰圍氣の中に育まれる「アルバイト」の恵にお互が浴する日も遠くは無いと存じます。

◇蠶絲化學實驗室的の西隣に又工事が始りました。今度は圖書閱覽室との由です。追々に整ひ行く母校の姿を見るにつけ吾々は或る責任を感じずには居られません。

◇本學年より中國人沈九如氏、葛敬遠氏の兩氏が母校研究生として入學せられ沈氏は目下蠶絲化學專攻中、葛氏は蠶種學及蠶休生理學專攻中であります。尙本校養蠶科一年選科に王福山氏が入學し、又王寶琳、及俞筠鐸の兩中國婦人は目下母校養蠶部に於て見學實習中(八月末日歸國の豫定)であります。益々兩國の親交を厚うする礎となることと信じます

◇母校研究生の資格が改正せられ。本校と同等以上の學校を卒業せる内外人に對し特に詮衡の上研究生として入學を許可することになりました。

會 合

◇去三月十五日 母校第十四回卒業式後本會總會を開催し約五十名の來會を仰ぎ、例の本會規則改正案を協議し、尙午後六時から明倫堂に於て針塚校長外恩師各位を交へて愉快なる盛宴を張りました。

◇四月十日 本會近畿千曲會は更に今回の改正規則に基き京都、奈良、大阪、和歌山、滋賀の諸府縣を統一して近畿支部會を創設することとなり、小見益男兄が支部長として奮闘せらるることに決定致しました。

◇六月二十日 本會東京支部の發會を見ることとなり、京橋第一相互の東洋軒に於て東京、千葉、埼玉からの同窓約34名と針塚先生、築地先生、勝木先生及新樂先生の御臨席を仰ぎました。田口敏夫兄が支部長として活躍せらるることになりました。

◇松本を中心とする安筑支部、四月二十四日安筑支部春季總會開催、出席者三十餘名、上田より針塚校長及林幹事出席特に新規則に依る南信支部創立に關しては創立委員として安筑支部長山本辰五郎君、同幹事牧野金次郎、永井榮兩君の三名を擧げ今秋迄に創立總會を見る様盡力される筈です。

◇横濱における千曲會、五月二日横濱在住會員よりなる千曲會春季總會開催出席者三十餘名、上田より三谷及林兩氏出席、盛會、特に新規則に依る支部設立に關しては現状と大した相違なきを以て一同設立を議認し一切を現幹部、府川作平君、山口正明君及佐藤種雄君等に一任と決した。

故 伊藤富次君弔慰金

金 貳 圓	河西 尙 一君		
金 壹 圓	井上 一 郎君	小林・榮 夫君	後藤 正 三君
	山岸 寅 雄君	北島 正 生君	稻生 得 藏君
	野口 信太郎君	窪 田 潤君	神戸 敏 夫君
	依田 寛之助君	高橋 利 光君	宮本 靜 雄君
	飯島 貞 雄君	小林 立 夫君	竹内 虎 夫君
	島倉 督 造君	小山田 道男君	牧野 春 雄君
	中村 山 校君	田中 定 男君	多勢 龜 次君
	吉川 誠 彦君		

以 上

合 計 金貳拾四圓也

内 譯 金五圓九拾壹錢

差 引 金拾八圓〇九錢也

通 信 費

遺 族 贈 呈

昭和二年六月十九日送金

圖 寄 書

神戸より伯林へ

伯林にて 佐 藤 利

1. 印度洋經由に就て

印度洋を經由して歐洲に來るのは從來の最も普通の通路であつて、其見物記の如きは既に已に多くの人々に依つて廣く世に紹介されて居つて、僕が茲に敢へて、しかづめらしく書き立てる必要は毫もないのであるが、同じものを見ても人に依つて觀察を異にするこゝもあり、又時期に依つて、見る地方の事情に多少變動のあるこゝもあり、加之或は此記事を讀んでくれるかも知れぬ。僕の辱知の人々に僕の動靜の一端を知らせる意味でペンを持つたのである。

日本から歐洲に來るには印度洋經由の外、尙西比利亞經由と、亞米利加經由との二つがある。此等の通路の中、西比利亞經由が旅行日數も、費用も一番少く印度洋經由に比して日數は約三分の一、費用は約二分の一で済むらしい。亞米利加經由は日數は印度洋經由よりは稍短縮し得るが、旅費は一番多い。それで旅行に要する日數や、費用の點から云へば當然西比利亞經由が最も有利であるが、旅行の途中が他の通路に比して無味乾燥らしいとの臆測から尠くも最初の歐洲への旅行は大抵他の通路、殊に印度洋經由によるような状態になつて居る。尙西比利亞線は道中不安であるから他の通路による方がよいと云ふ人もあるが別に其の心配はないらしい。先頃實業の世界社の野依秀一氏が十日間程露國で拘留されたやうな事實はあるが、あれは恐らく例外であらう。

2. 本國出發の頃

「あなた、これから二年以上も御留守になるじやありませんか、それに立つ間際になつても毎日々々朝から晩迄ちつとも隙がなく、而も最後迄一日も餘裕がないなんて本當に厭だわ、第一子供等がかわゆさうぢやありませんか。ね。あなた。」

これは僕の本國出發の二週間前に於ける妻の小言であつた。

「だつてやるだけのことはさうしてもやらねばならぬから仕方がないさ。」
さ無難作に云ひ放つては見たものゝ此言葉の後に子供等の無邪氣の顔を見る迄には既に僕の眼は充分に潤つて居つた。此の真情は子供を持たぬ人には或は解らぬかも知れぬ。

僕は遂に出發當日まで只の一日の餘裕もなく倉皇荷物を取纏めて旅立たねばならぬ運命にあつた。それ迄に忙しかつた仕事の内容に就ては旅行記其物は別に密接な關係もないから書くことを省略するが、兎に角此忙しさのために旅行に關する僕の準備は物質的にも、精神的にも、僕をして満足せしむる程度に出来て居らなかつた。此上は仕方がない持合せもので常識的にやつて行くより外に方法がないと諦めた。「大膽に細心に」これは今回の外國旅行に對する僕のモットーであるが出發準備には細心が缺けて居たから大膽は自ら無謀の意味になつたのである。然し周圍の事情は僕をして細心ならしむる程の時の餘裕を與へてくれなかつたのである。當時本國の陸地に居る間に行ふべき僕のプログラムは全く満員で、少しの餘裕もなかつたが乗船すれば急に用事が尠くなつて呑氣になれる様に出来て居つた。假令僅かに二ヶ年餘であつても親兄弟、妻子を残して遠い海外への一人旅である。本國を離れるには無論多少の未練なかるべからずであるが出發前に餘りに忙しかつたために寧ろ早く乗船して少しは呑氣にもなつて見度いやうな氣もして此の反對の情緒が互に相殺したために本國を去ることは悲しくもなし、嬉しくもなしと云ふ變な心理状態になつて居つた。

殆ど待つ間もなくやがて神戸解纜の五月十三日が來てしまつた。我榛名丸の憩ふ棧橋には千餘の見送人が並んで居る、五色のテープは送る人の手と送らるゝ人の手とを堅く結んで恰も蜘蛛の巢の如く張られて居る。正午一聲の汽笛を合圖に悠然と此の一萬餘噸の巨船はゆるぎ出した。

左様なら。

御機嫌よろしく。

萬歲。

萬歲、萬歲。

帽子が舞ひ、ハンカチが飛び大變な景氣である。五色のテープが益々緊張す

る。一本切れ、二本切れると思ふ間にやがて棒でたゞきつけた蜘蛛の巣の様に皆切れてしまつた。汽車の別れは違ひ何時迄も陸の人の姿が見えて名残りの盡きぬ風情であつた。送る人の側では恐らく

船は出て行く鷗は歸る、

忽路高島及びもないが、

せめて歌棄磯谷迄。

かな。

3. 航海中の海上

瀬戸内海の景色は何時見ても美しいが外國行きの船から眺めては又一入である。内海のこゝであるから船は少しも動揺しない、然しながら門司を出れば音に聞ゆる玄海灘である、多分船が大に動くだらうと豫期して居つたが少し動いただけで大したこゝもなかつたのは物足りなかつた。其後上海に行くまでは殆ど動揺せず極めて平穩の航海であつた。然し上海を出て暫くの後十時間程の間はなかなかよく揺れた。吐いた人は餘りなかつたが大部分の人は二回の食事を減じてしまつた。僕も遺憾ながら其の仲間入りをしたが如何にも生理的に起る現象だから得意の頑張も一向効果がなかつた。香港港外でも少し揺れたが其の折りは減食した人は殆どない。只二三の婦人連が少し弱つて居る位のものであつた。全航海を通じて最も強く揺れたのは新嘉坡コロンボ間であつたがそれも大荒れ云ふ程度ではなく而も既に二週間も航海した後で乗客が船に馴れて居つたために、船に酔つた人は婦人連の外には殆どなかつた。無理もないと思ふが女には弱い人が多い、それで居て今の女が男女同權だ、やれ何だ云つて金切聲を張りあけて居るのは少し生意氣過ぎる。頭も身體も充分出來て居ない中から貰ふものだけは男と同じく云ふのは少し蟲がよすぎるこゝではあるまいか。尤も力一點張りで世渡をしようとする男も困つたものだが。

暑い印度洋上の航海は約一週間に過ぎなかつたが體驗のためには敢へて不足ではなかつた。いくら體驗だから云つて暑過ぎるのはありがたいものではない。大抵の處で思つて居つたら氣温は毎日華氏八十度乃至八十六度の間を上下し水温は概して氣温よりも概して一二度低かつた。即ち左程強からぬ暑さで

あつた。然し朝夕と日中との温度の差が少いために船室内の夜の就眠には可なり暑苦しく感じたこともあつた。最も暑かつたのは紅海通過の二三日間であつて、其の時は気温が九十度以上にも達し、而も風が一向なかつたのでなかなかよい體驗になつた。此邊は兩岸に砂漠があるためにかやうに暑かつたのである。

其他の海上は極めて平凡で特筆する價值のあるものはなかつた。要するに此航海は概して海上波穏かで、而も懸念して居つた印度洋上は案外涼しかつたので、最も恵まれた航海であつたこと云つてよい。

船中に於ける日常の生活は極めて單調であるが何時迄經つても飽きぬから不思議である。尤も船内には碁、將碁、麻雀、ピンポン、輪投、デツキゴルフ、ピアノ、蓄音機等の娛樂機關があり、又暑い時にはデツクに水槽を設けて水泳の便に供してあるし、又乗客一同は互にすぐ懸意になつて肩の凝らぬ馬鹿話等をして暮すのであるから一向退屈しないのである。一樹の蔭に宿あり、一河の流を汲むもこれ他生の縁と云ふ言葉があるが、況してや日夜寢食を共にし又萬一の場合には生死を共にすべき仲である、乗客同士が恰も一家族内の者の様に親しくなるのは當然のことである。御蔭でこんなことも遠慮なく聞くことが出来て本國出發前に不備であつた僕の海外旅行に關する智識は圖らずも船内で大に該博になつてしまつた。かうした船内で眞面目に勉強することはまづ不可能と云つてよい。周圍の還境がこれを許さない。勉強しても行程が至つて進まないからまづ骨折損の草臥儲けと云ふ所だ。船内ではまあ吞氣に愉快地健康第一主義で暮すのが最も得策らしい。

4. 寄航地の見物

我榛名丸は神戸解纜後、門司、上海、香港、新嘉坡、マラッカ、ペナン、コロンボ、アデン、スエズ、及びポートサイド等に寄航した後に神戸出發以來四十日後の六月廿一日に佛蘭西のマルセイユ港に到着したのである。此間に於ける寄航地の見物記を茲にものして見やうと思ふのであるが見物の日時や見物したものの全部を書く氣はない、其中只比較的面白く感じた點だけを指摘して見やうと思ふのである。

以上の寄航地の中、門司の見物記は之を省き、又マラッカは寄航した名ばかり

りで上陸見物する餘裕がなく、又スエズポートサイドは只素通であるから此等のものを除いた、其他の寄航地のみの見物記を書くことにする。

上海。上海は支那第一の貿易港であるが海岸にあるのではなく楊子江の河口から約四十里の上流にあるのである、此河口より四十里溯航する間の景色は實に雄大である、百年河清を待つとは北の黄河に對して云つたことであるを記憶して居るが此楊子江も永久に澄むことなき濁流らしい、濁流を云へば日本では河川の洪水の折にのみ見ることの出来るもので僕の今迄の印象が甚だ悪い巨船の上に居るのではあるが幅員數里もある濁流を溯る折には實に物凄いやうな感じがした。此大河の兩岸が沃野千里に續いて居るのも對照が面白い、これが始めて見る支那大陸であつた。

上海は人口百萬以上もある堂々たる一大都市である、建物は東西兩洋の混合であるが僕等には支那街の方が却つて珍らしかつた、住民は大部分支那人であるが其他世界各國の人種が集つて居り日本人も約二萬人居る、東京の銀座通に相當する大馬路、淺草に相當する城内、夜の四馬路等は何れも群衆雜沓の卷である。

市内雜沓の卷の塵埃を避けるためには二三の大公園がある、其中、新公園を稱するものは最大のもので嘗つて極東オリンピックの會場となつたことがある美しいローンにテニスコートが數個畫かれてあつたのは僕には非常に羨しかつた。公園の素敵に大きいのも所謂大陸的を申すのであらう。

上海では碇泊時間が比較的長かつたために悠々見物することが出来た、乗物は電車、自動車、人力車等であるが僕は主として馬車を用ゐ、補助に人力車を用ゐた、人力車は實に多い、一人の者に交渉して居る中に我も我も何人さなく押寄せて來て遂には變な競賣のやうなものになつたこともある、其料金は或は世界一安いものかも知れぬ、半里程乗廻して日本貨十錢位に過ぎぬこともあつた。上海では營に人力車の料代のみに限らず一般に何品物でも安價らしい。

兎に角、上海見物で外國に來たやうな氣分を充分濃厚にすることが出来た、上海迄は門司から僅かに二晝夜位で來れるのであるから日本の學生の修學旅行地等さしても面白い土地と思ふ、我榛名丸には門司から上海へ修學旅行の女學

生が多數乗入して居つた。

香港。上海から三晝夜足らず船で南下するに香港に達する、香港は約三十平方哩の一小島で二面に山を負ひ、港内廣く、水深く、世界屈指の良港を形成して居る、市街地の人口は上海の約半數と云はれ居る、昨年以來既に一ケ年餘に亘る支那人のボートコックで市内の活氣は乏しかつた。

見物は市街地には殆ど興味が無いが自動車で島廻りを試みるのが面白い、一周二十五哩、山道は云ふものゝ東京の市街道路よりは遙によい道で自動車は何時も滑べるが如く前進を続け約一時間半で一周する、此間絶えず變化極まりなきパノラマ式の山水の勝景を賞することが出来る、又ケーブルカーで香港市街地の背後に聳ゆる千數百尺のヴィクトリアピークの山頂を極め全市街地に並に四方の景色を眺めるのも一興がある。

香港は支那料理のよい處である、上海の支那料理よりは一層美味であつたやうに思ふ、只見るばかりが能ではない、食ふ方も好機逸すべからずと思つて居つたのではあるが實は此處の料理は親戚の者におごつて貰つたのであつた、尙海外旅行では只見るべく聞くべくして決して行ふべからざる種類のものも多少あるやうだ。

新嘉坡。香港を出てから約五晝夜程南へ航海するに新嘉坡に着く、着く早々一寸吾人の感興を唆るものは河伯乞食の襲來である、二三十名の彼等は各々身大の小舟に棹して我様名丸の周圍に蟄集し吾々乗客に向つて海中への投錢を乞ふのであつた、彼奴等は身體が小さく其色飽迄黒く眼も齒さばかり白くぴかぴか光つて居る、身體に鱗も頭上に皿をそなへ、風守極めて河伯に似、又水泳は魚の如く巧みで吾々が力任せに遠い海中に投ずる錢を一度も失錯なしに拾上げた、然しながら此現代河伯はなかなか横着者で銅貨を投げた場合には何時も棄權して決して拾ひに出掛けない、此河伯連ばかりでなく此地方の黒い人間の黒さには實に驚く、其最なる者に至つては正に煙突掃除夫以上で眞暗闇で遭つてもはつきり黒く見える程度の黒さである、人權問題を云々されても困るが正直の處からなると、もう人間らしくない。

新嘉坡には恰も上海に於けるが如く世界各地の人種が集合して居つて、宛然

世界人種の博覽會場たるかの觀があるが、其大半は支那人である、然し僕等は當地で支那人でも亦日本人でもなくて極めてよく日本人に似て居る土着の人間を時々見たので案内者に聞いたら何時も彼等は馬來人種であるを答へた、或歴史家が日本人の先祖は馬來人種らしいと云つたのを耳にしたことがあるが兎に角不思議によく日本人に似て居るころの馬來人が居る、案内者の言によれば當地の土人は大抵自身の歳を知らぬさうだ、歳を聞かれると自分の生れた時には庭の椰子の樹が何尺位の時ださうであつたのに今はこれ程樹が大きくなつて居るから恐らく幾歳位でせうと答へる者もあるさうだ、四季の區別のない當地では唇に注意しない限りは或はそんなことになるかも知れぬ、それでも夫婦は大抵同じ位の年輩の者が一緒になつて居るさうだ、又此處の土人は方角に基だ無頓着ださうだ、方角は船に乗る人以外には知る必要なしと云つて澄まして居るさうだ、萬事が此調子らしく言葉等も至つて簡單で大抵名詞を羅列するに過ぎぬこの事である、野蠻人の言葉が簡單であるをすれば世界一むづかしい言葉を有して居る日本人は最も文明でなければならぬことにもなるが日本では今、過ぎたるは及ばざるに如かずで言葉の多過ぎるので困つて居るのであるから世は様々のものだ。

新嘉坡は人口四十萬餘の繁華な港であるが市内の建物には餘り目ほしいものはない、只博物館だけは充分見る價值がある、館内で最も注意を惹くのは動物の剥製品である、巨大の猛虎を中心として大蛇、鰐、各種の極樂島等珍奇のものが無數に陳列されてある、又馬來人種に關する参考品も興味のあるものである。

新嘉坡ではバナナ、パパヤ、パインアツプル、其他柑橘類等の珍果を澤山頒張ることが出來たがあの味は今尙忘れられぬ。

新嘉坡から自動車で一時間程の距離にジョホール王國がある、先づ新嘉坡市の一端にある美しい植物園を見てからジョホール行を試みるのである、其沿道には箒を逆さまに立つて並べたやうな椰子の林が連綿として續いて居る、又切腹だらけの護謨の樹の林を時々見參に及ぶ、ジョホールには宮殿や綺麗な回々教寺院等があり又山あり水ありて其周圍の景色が實によい。

ベナン。ベナンは馬來半島の西岸に接してある同名の島の首府であつて人口は十萬程ある、市内には別に見るべきものはないが此附近に極樂寺と蛇寺とがある。

極樂寺は結構も可なり人目を惹く佛教の山寺であるが尙其附近の景色が非常によい。

蛇寺は蛇觀音とも稱し小さい御堂ではあるが其中に毒蛇らしい青い斑點のある蛇が數十匹生活して居るので有名になつて居る。

コロンボ。ベナンから西航するこゝ約四晝夜でコロンボに達する、コロンボは印度の南端の錫蘭島にある人口約二十萬を有する一良港であつて規模宏大な防波堤を廻らして居る。

市内や郊外の模様は曩の新嘉坡に彷彿たるものがある、市内の見物一時間も自動車を飛ばせて一巡するこゝが出来、餘り注意を惹くやうな建物は無いが土人には確に一顧の價値がある、土人の服裝は餘り一定もしてないが大體普通の洋服を着て居るものと半裸體のものに區別し得るから知れぬ、後者には男も女も大きな柄が眞赤の腰巻をして居る者が多い、兎角野蠻人は大きな模様か赤いさか一寸華美らしく見える着物を好むらしい、僕は嘗つてアイヌ人の嗜好する處に基づいて馬鹿に大きな柄や素敵に華美な服裝をする人を恰も野蠻人の如しと評したこゝがあるが印度の土人を見て其言は適評の場合が尠からぬこゝを痛感した。

コロンボには食物に一つ名物がある、それはライスカレーである、僕は一行の友數名と共に此名物を食ふべく或レストランに行つた、折しも客が大入りであつたが大抵の客がライスカレーを極めておいしいさうに頬張つて居る、然るに此ライスカレーは素敵減法に辛いもので一口は泣き泣きも食べたが到底二口は食べられぬ代物あつた、され程の辛さ云つて別に比較するよい標準もないが瘠我慢の強いこゝでは常に驕名を馳せて來た我輩が空腹であつたにも拘らず二口は食へぬ程の代物であつたためであるから實に驚くべき辛さのもの云つてよからう。之を平氣で否おいしく食ふ者は僕等を標準とすれば正に超人的の舌の所有者と云ふこゝになるが無論それは辛いものに馴れたためであら

う。これは敢へて食物の辛さに限らず人間の修行が如何に偉大なる効果を齎らすものであるかの一例ともなう、名物にうまいものなしと云ふ語があるが當地のライスカレーは初心者には屹度世界一うまいものに相違ない。

アデン。アデンはアラビアの南端のアデン灣に臨んで居る一小港である、小高い岩山を背景として海に臨んで居る其様は風光明媚と云ひ度いのであるが惜しいかな此地方一帯に殆ど草木がないので至つて殺風景である、土の色も赤く常に炎熱鐵をも熔かすが如き暑い日光を浴びて居る様は宛然此世の焦熱地獄であるが二三時間の見物のためには特殊の土地として却つて大に興味がある、此土地で一番困つて居るのは水の欠乏である、山の麓に貯水地を設けて一滴の水をも有効に利用しやうと努めて居る、よくもこんな所に人間が住めたものだと感心したが矢張住めば都かしら。

カイロ。カイロは寄航地ではなく彼の運河で有名なスエズから汽車で五六時間を要する埃及の國內にある、船が運河を通過し且ポートサイドを出る迄の時間を利用して此地を見物するのである、僕は此方法でカイロを見物したから寄航地に準じて其見物記を此處に加へやうと思ふ。

汽車は暫くは小川の如き運河の西岸に沿ひ滿目荒寥たる砂漠を左に眺めつゝ北上し、やがて運河を離れて西方に進路を取り、砂塵を浴びること約四時間にして漸く耕作地帯に入るのである、車内は實に暑いが窓から砂塵が侵入するので窓は不切である、而も顔と云はず洋服と云はず赤い砂だらけである、耕作地帯にはナイル河の水の灌漑で麥や綿がよく繁茂して居る、此地方は年中殆ど無雨で灌漑せずには作物を栽培することが出来ぬ、農家に屋根らしい屋根のないのは降雨のないためであらう、カイロ市に近づくに従つて天の一方にピラミットの雄姿を望むことが出来る、椰子の樹も異様な姿で點々立つて居る、かうした面白い風光を飽かず車窓から眺めつゝある間にやがて汽車はカイロに着くのである。

カイロは埃及の首府で人口約八十萬の大都會である、市内では是非見ねばならぬものは回々教寺院と博物館とであらう、此寺院は十四世紀の中葉に建てられたもので其結構の美と規模の宏壯とは今人も尙且容易に模倣し得ざるものがあ

る、博物館には主としてナイル沿岸で發見された古代埃及の遺物が藏されてあるが各種の蒐集品の豊富なる實に考古學者の垂涎措く能はざるものがある、本家本元だけに木伊乃是完全のものが多数陳列されてある、種々の點から古代より世界の文明の進歩は案外遅々たるものであるものであつたかのやうにも思はれる。

カイロ市の南に隣接して舊カイロ廢墟がある、今のカイロ市の創設前に大震災があつて一朝にして廢絶に歸したものであるさは案内者の言であるが其廢趾は動物の骸骨にも似て哀れのものである、折しも起る風の音は恰も人生の烏鴉轉變の極まりなきこさをさぎれさぎれにつぶやきつゝあるかのやうに聞えた。

カイロ市外の西天の一角に巍然として聳えて居る彼の有名なギザの大ピラミットは無論是非見ねばならぬものである、吾々の自動車は市の西端に於てナイル河の長橋を渡ることになる、ナイル河の名は僕の久しい憧れのものであつたナイル河は昔も今も埃及全土の死活を制する靈河であるが途中灌溉用に多量の水を供給して居るためか豫期に及して大河ではない、又語原の青色の名にも相應しからぬ濁流である、僕等の眼には音に聞ゆる大河なるが故に清濁併せて吞むかの如くにも映じた、自動車が更にアカシャやネムの美しい並木の街道を暫く快走すればやがて「リビア」砂漠の一端に達するのである、此處で自動車を捨て駱駝背上の人となり目ざすピラミットに向つて炎天の下、靜かに歩を進めるのである、最初に吾々の目前に現はるるギザのピラミットは埃及に現存する六十七個のピラミット中の最大のもので高さ四百八十一呎餘、面積約五町二反を有する偉大のものである、主として四角形に切り揃へた石灰石と花崗岩とを四角錐體に積み重ねて造つたのである、此大ピラミットは實に三十萬の壯丁が五十五ヶ年の歳月を費して漸く完成したものだと言はれて居る、これが帝王の一墳墓であると言ふに至つては建設の可否は別として如何に膽玉の大きい人が設計したものであらうか驚かざるを得ぬ、其背景が大砂漠であるのもふさはしく思ふ、此附近に更に二個のピラミットが並んで立つて居るが其一つは前者に次ぐ大さで他の一個は遙に小さいものである。

此等のピラミットの背面には有名なスフィンクス(人面獅子像)がある、果し

て何時何人によつて建設せられたるものであるかは判らぬが紀元前四千年頃に既に之が存在して居つたことだけは記録で明らかになつて居る處から考へるに非常に古いものであることが譯る、像の高さ七十呎、長さ百五十呎を有する石像である。

5. 佛 蘭 西 國 内

神戸港解纜以來四十日間に亘る長途の航海も全く無事で何時の間にか終りを告げ我家の如く住み馴れた榛名丸を離れ、我家族の如く親んだ多くの友と別れねばならぬ日が來て、いよいよ佛蘭西のマルセーユに上陸することになった。

上陸するに先立ち税關で荷物の検査があつた。此處の吏員は要領がいゝのかそれとも醜類なのか僕等の荷物の検査は甚だ粗漏であつて單に申譯的に済まして仕舞つた。但し僕等の世話人とは有無相通するらしい態度であつた。

マルセーユの市内を自動車で一巡して見たが左程珍らしくも感じなかつた。それは既に今迄に本國とは全く飛び離れて居る様子の所を澤山見て來た後であるから日本でも見得る様なマルセーユの建物や佛國人等には既に刺激を受けぬためである。それでも黒岩涙香氏譯の巖窟王で有名なシャトーディフ牢獄や丘上に聳ゆるノートルダム塔等は特に印象を深からしめた。

マルセーユは人口約五十萬を有し佛國第一の貿易港であるが風儀の悪い事も第一らしい。僕の最初の留學國は獨逸であるがマルセーユに上陸した關係上佛國を通過する爲めに佛國內を見物する事が出來たのである、然しながら佛國は後日再びゆるゆる見物する心算であつたために今回は僅に四、五日間佛國內に居ただけである。

マルセーユから巴里迄汽車の旅は佛國の大半を南北に縦斷するものであつて車窓よりの眺望は吾人に非常に大なる興味を與へてくれた。此の鐵道の沿線には丘地はあるが日本で見る様な稜角の多い所謂山らしい山は尠く概して變化に乏しい平地が多く何さなく大陸らしい氣分が漂つて居る。果樹園の多いのは特に注意を惹くが普通の作物を栽培して居る所も無論多い、作物の生育の狀態から察すれば北部方面は相當に地味が肥沃である様に思はれるが南部の地方は地味が餘りよくないらしい。汽車の速力は馬鹿に速かで車體の附近の土地は眼に

も止らず過ぎ去つて仕舞ふ。車體の幅は日本のものよりは多少廣いが速力の大きなためか動搖が甚だしく従つて餘り乗心地のよい汽車ではなかつた。そして時間の正確さも日本のものと似たり寄たりであつた。

巴里には三日間滞在し、市内を二日間、ヴェルサイユを一日見物した。これだけの見物日程では人口三百萬人を有し面かも世界の遊覽地と呼ばれる大巴里を充分見る事は無論出来ない。それでも或は世界一高い建物だ云つて巴里兒が誇つて居るエッフェル塔に登つたり、或は凱旋門の下にある無名戦死者の墓やバンテオンの知名の士の墓に詣でたり、或ひはサロンやルーブルの博物館で藝術品の美を賞したり、或はノートルダム寺院やソルボンの大學を見たり、或は市内の塵埃を避けてブローネの大公園の中を逍遙したり、或は不夜城の巴里の情景に驚いたりしたこともある。

巴里に居る人間は毎日朝から晩迄隙なしに遊んでばかり居るのではあるまいかと思はれる迄に常に市内が雑沓して居る、こんな首府を持つ佛蘭西が過去の大戦に於て假令有力な他の助太刀があつたにもせよ、よくも強い獨逸に勝てたものだと思はれる位である。尤も世界の遊覽地たる巴里のみを見て佛蘭西全體を卜する事は或は早計かも知れぬが。

巴里を見て少しく意外に感じたのは婦人の服裝であつた。世界一の花の都の巴里婦人は定めて随分華美な様子をして居る事であらうと思像して居つたのが案外地味であつたのには驚いた。粉黛や口紅を施して居るのは敢へて巴里婦人に限らぬことまで取立てゝ云ふ程の事でもないが着物の柄や色合は可なり地味なものであつた。

巴里の街道では手や足の不具な男子が可なり多く見受けられた。此等の者は申す迄もなく過去の大戦に於ける負傷者である。佛蘭西では今は影も形も止めない幾百萬かの生靈をすら犠牲に供したのであつたことに想到すれば不具位の事はと思はれぬでもないが兎に角大戰當時の悲壯な有様は今尚巴里市内に於ても充分偲ばれ得るのである。過去の大戦は兎に角佛蘭西側の勝利に歸して一段落を告げたのであつたが對手の獨逸は遂に亡びなかつたのみならず戦後の國力回復が世界の豫期を裏切つて甚だ速かである。歴史的に仲の悪い獨逸殊に敵愾

心に燃えて居る獨逸が現に嚴然とお隣に控へて御座る以上、佛蘭西人は何時迄も枕を高くして休む事は出来まいと思はれる、近來獨佛接近の現象あり等云つて將來の兩國間の關係を樂觀的に觀察して居る人もあるが、それは單に表面的の事で或は假令それが事實であつても一時的の現象ではあるまいか。敢へて獨佛間のみではなく人間の生存競争の續く限り又今日の人間の子孫が世界に住む限り將來戦争が根絶してしまふ事は考へられない。故に昔から今日迄武備の擴張さか充實さかで世界各國共に寧日なしの有様でやつて來て居る、そして戦争しないで御互に戦備に疲れて仕舞ふ様な状態になつて遂に世界協定の武備制限さか云ふ頗る御都合のよい名案が生れた譯だ、然しそれは實は甚だ迷案で徹底しにくいものである、そう云ふ向きの御相談ならば寧ろ戦争は互に素手でやらうぢやないか、そして陸では野原か山の中で、海ならば水の中で素裸で組討することだ、それから羽根のない人間が空中で戦争する等云ふことは生意氣處か全く不自然のことでから嚴禁することにしては如何なものか。そうすれば大砲も鐵砲も城も軍艦も飛行機も一切不必要になつて經濟的には人類は今日よりも遙かに幸福に暮し得る事にならう。これこそ實行出来れば本當の名案であらうが然しそれは結局出来ない相談になつて相變らずお互に身分相應の軍備が必要になるのである。然るに佛蘭西では身分不相應の龐大な軍備をなしつつあるので國力は其のために尠からず消耗しつつある。他の一方の獨逸では極端に軍備を制限されて仕舞つた結果軍備のための費用を大に節約し得て居る。さうで經濟的方面から云つても過去の大戦後尠くとも五年や十年は獨佛共に國を賭する程度の大戦争は出来ないにきまつて居るから、獨逸の今日の軍備の小なるは却つて將來に於ける國力の伸展に有利な結果になるかも知れぬ。佛國たるものなかなか油斷すべからずである。本年のサロンの正面には鬚を踏みつけて居る彫刻物即ち獨逸を蹂躪する意味のものが公然と飾られてあつたが佛蘭西に於ける對獨敵愾心は戦争に勝つた今日も尙容易に薄らいで居らぬらしい。

6. 目的地の柏林

巴里の滞在は世界大戰の講和條約調印場として更になつたヴェルサイユの宮殿の拜觀を最後としていよいよ憧れの柏林へ向つて出發した。世界大戰

の昔を偲びつゝ、白耳義を経て獨逸の國境に達したのは丁度早朝であつた。昨日迄は本國出發以來英語のみで不便なく旅行して來たが、今日からは獨逸語で話さねばならぬ、獨逸人の云ふこゝさが譯るかしら、僕の話す獨逸語が果して先方に通するかしら等々考へて居る中にはや、獨逸のアーヘン驛に着いて税關から荷物の検査を受けることになつた、二三分間の停車時間内に検査を受けるのであるからなかなか忙しい、乗客一同が鞆の鍵をあけて待つて居るとき税關吏が一方から順に検査して來る、僕の隣席の〇君はトランクの中を大分丁寧に検査されてびくびくして居たが、やがて新嘉坡で買つて來た數個の人形が見付かつた吏員が人念に見て居るので〇君益々心中穏かでなかつたらしいが其中に一人の吏員がこれは大層かわゆい人形ですね澤山御持ちのやうですから一つ頂戴出來ますまいかさ云ひ出した、びくびく者の〇君は待つて居ましたさ云はんばかりに差上げますさ早速返事するさ、他の一人の吏員も僕にもさ云ふので折角の南洋仕入れの人形が二つ巻きあげられてしまつた、然し何物にも課税はなかつたのでほつさしたらしかつた、次には僕の番だ、御隣りで人形を得たためか吏員連は少し御機嫌がよさそうだ、僕の處からは絹のハンケチでも巻きあげるのかしら、うるさい奴等だなさ思つて居るさ至つて丁寧に「貴下は獨逸に勉學に來られたのですか」さの質問である、然り私は公用で勉學に來たのですさ答へたら案外にも荷物の表面に一瞥を與へただけで通關を許してくれた、かくして荷物を動かすために手傳つてくれた吏員の助手らしい者に少しばかりのチップを與へただけで事は簡単に済んだのであつた。目的が豫め分つて居ることであつたためでもあり懸念して居つた獨逸語が案外よく通じたのは嬉しかつた。アーヘン驛からは一路東を指して伯林へさ急いだったのであつて途中で特に見物した處はないが汽車で獨逸の國土を西より東へ三十時間餘走り抜いで車窓から眺めたさこゝろに依るさ山も川も尠く景色が至つて單調で豫期せしよりは美しいものではなかつた。途中ライン河やエルベ河等の大河をも渡つたが景色は大陸的で大きくはあつたけれぎも水も濁つて居り餘り美しい感じはなかつた、僕は所謂美食に飽きて居つたやうに本國の彼の山水明媚の景色に日常接して居つても左程に感ぜずに過ぎして來たが今回の世界旅行で海外の景色を見て始めて日本の

景色の平凡なる其の眞價が譯つた、實際人間の贅澤には限りがないものだ、獨逸の農村は僕の眼には恰も所謂文化村でもあるかのやうに美しく映じたがそれでも尙佛蘭西の農村よりは多少粗野のやうにも思はれた、農耕地に牧草栽培の多いのや雜草が尠いの等は特に注意を惹いた、地味の悪いためや乾燥に失するため等でも雜草は尠くなるが農作物の生育の模様から察すれば餘り地味が悪いとも思はれぬから恐らく農家が勤勉であるために雜草が尠いのであらう、目的地たる伯林に無事到着するこの出来たのは神戸出發以來實に一ヶ月半を経たる六月廿六日の夕刻であつた、二名の友の出迎を受けたのは何よりの好都合で直ちに下宿屋の一室に納まるこゝが出来た、爾來伯林で日を送るこゝ既に五ヶ月に及んで居るから伯林及び獨逸國に就いて見聞したこゝは決して尠くはないがそれを此處に詳しく書くこゝは一回分の原稿としては餘りに多きに過ぎると思ふ、僕には既に日暮れて道遠しの感があるから此處には其所感の二三を記し其他のこゝは他日の機會に譲るこゝにしようと思ふ。

獨逸は大戦前には世界に於ける學界の中心地として又最も文明なる國として又最大強國として自他共に許して居つた國であるが、彼の大戰に全世界を相手として勢力のあらん限り奮闘力戦し遂に彈丸も人も食物も金も盡き果て、止むなく軍門に和を講うたのであつたこゝは今日尙何人の記憶にも新しいこゝであらう、然し乍ら獨逸は最後には敗れたり、雖も全世界を對手としても尙且四ヶ年の長年月に亘つて奮闘した其戰跡を顧みれば其武勳の赫々たる其底力の強大なる實に驚嘆に値するものがあつて、敵ながらも天晴であつたこの讖辭は恐らく何人も惜しむこゝが出来まいと思ふ。獨逸は敗戦當時已に殆ど自滅せんさする程度迄に國力を消耗して居つたのみならず彼の媾和條約に依つて植民地の全部並に工業原料の重要産地たるアルサスローレンス等の富源を失ひ更に莫大な賠償金を仕拂はねばならぬこゝになつたのであるから到底將來長く再起の見込がなからうと思はれて居つたのである。

然るに戦後まだ僅かに十年も経過せざる今日に於て既に大いに國力を回復し一見しては一向戰敗國らしくないやうな状態になつて居り彼の戰勝國の方が却つて景氣が芳しくないやうに見えて居るのである。然しながら正直處獨逸では

政府にも國民にもまだ金のないのは事實であつて今後容易に樂觀を許さぬものがある、只年一年その經濟狀態が明らかによくなりつゝある所に獨逸の強味があるを云つてよい。

今日の獨逸の國家社會秩序は整然と維持されて居つて別に不安がない、獨逸は大戦後政體が革まつて共和政治になつたが本來は保守的の國民で舊慣を容易に脱しない性質を有して居る、今日尙帝政復活の問題が時々擡頭しつゝあるも其ためである、尤獨逸人は非常に規則的に生活する國民である、凡ての場合に規則がある、恐らく此國のやうに禁制の多い所は他には餘り例があるまいと思はれる、何々する事を禁ずるを云ふ張札が隨所に掲げられて居るがそれをよく國民が守つて居るから感心だ、所謂官僚的色彩も相當濃厚で執務上、上下の區別が確然として居る場合が多い、従つて社會的の秩序もよく保たれて居る譯である、學校のストライク等は獨逸では殆んど見られぬ現象である、長幼に秩あるも特に目に付く老人は通常特に敬はれて居るが子供等は半人前にも取扱はれて居らぬ、汽車や電車の中で人込の場合等には子供は最先に立たせられる、獨逸では子供の仕付けが概して嚴格で生長するに従ひ漸次自由を與へて行くやうにして居る、今日の日本では概して子供に比較的多くの自由を與へ生長の途中に嚴格にし最後に再び自由を與へる様な状態になつてゐるから獨逸は趣を異にして居る。

女に對しては獨逸は日本に比すれば女護の國で尠くも表面上は女を尊敬して居る、然し社會的にも家庭的にも實權は普通男の手にある、それは水の低きに趣くやうなもので能力の勝れたものが結局優者の位置に居るのは當然のことであらう。若し女で男優りの者があれば男の上に立つことも一向差支ないことで日本だつて尊天下もあることだ。

獨逸人の性格を或程度まで形に表はしたものは恐らく伯林市であらう、建物の構造は一定の規則の下に制限があるから全部切揃つたやうな五階建になつて居る、番地の打ち方も其札の形も一定してある、そして番地の数の多くなる方を矢の印で示してある、又街の交叉點には一定の様式で街名を書いてある、人行道と車道は嚴然と區別され往來は左側通行になつて居る、車道はアスファルト

で人道は石道である、又電車の停留場には其處を通過する電車に關して一目瞭然たる説明を掲げてある、交通機關としては地上電車、地下電車、市内汽車、乗合自動車、タクシー自動車等が間斷なく往復して居るから電車が満員で乗れぬ様なことは甚だ稀である、市内の各所に公園式の大きな廣場を設けてあるのは市の設計者に先見の明のあつたことで他の都市の追従を許さぬ處である、其他水道や下水の完全な施設のあることは勿論である、又建物の構造が完全であるために室内の保温に容易であつて、寒い伯林市に於て室内の温度を夏も冬も殆ど大差ない程度に暖かにして置ける。

兎に角伯林市の物質的方面の施設は今日の文明の利器を遺憾なく利用して居る點に於て到底東京等の及ぶ所ではない、それも其筈で今日の伯林市は強大であつた獨逸に依つて極めて長年月の間に造り上げられた首府であるからである、東京では今後單に道路や下水の施設を伯林市の真似だけでも容易の業ではあるまいが然し過去數十年間に於ける東京の面目を一新した其歴史を顧みれば或は案外早くものになるかも知れぬ。

扨て今日も尙偉大である獨逸人は果して如何なる人間であらうか云ふに、それは比較的遠からぬ昔の野蠻人で最初から偉大な人種でなかつたことは歴史を繙けば明らかである、加之其頭は今日も尙他國人に比して必ずしも特に勝れて居るとは思はれぬ、尠くも日本人等よりは頭の血の廻り方が露程もよくないやうに思ふ、又手先の血の廻り方も餘りよくないもさ見へて慨して無器用である、其代り最初から型にはめたやうに整然と秩序を立てゝ急らず構はず根氣よく忠實に仕事をやつて行くのである、之れで途中の失錯も尠く結局は比較的多くの仕事を仕上げることになるのである、此點は頭のよい場合以上に感服せねばならぬことと思ふ、性急で飽きっぽい日本人には大に真似るべき點ではあるまいか。

次に道德的方面に就て尙一言せんに獨逸の物質的文明の方面では吾々日本人から觀て羨しい點が尠くないが道德的方面では餘り感心出來ぬ點が多い、獨逸人は今日餘りに物質的方面に拘泥して居るためか人情美の方面は或は日本人程にはうるはしくないのであるまいかと思はれる、勿論人情美の存在は何處の國

にも共通ではあるが親子兄弟親友人知己等に對する人情美はさうも日本の方がよりこまやかなやうに思はれる、遠慮さ云ふことも或程度迄は社交上大切のことであると思ふが、獨逸人には遠慮さ云ふことは尠く、云はゞ赤裸々である性的方面でも動物性を發揮して居つて鬻盛すべきものがある。

日本で文明國人のすることは何でもかんでも凡て眞似るべきものだ等々考へるのは大間違である、男女間の交際の如きは日本の今日の方法にも改むべき點が尠くないがそれでも歐人の今行つて居る方法よりは遙によいと思ふ。

道德的方面では歐人こそ大に日本人に學ぶべき點が尠くないと思ふ、日本人が特に商業道德に欠けて居る等々云ふ評判の現象も之を外國に比較すれば尠くさも今迄には僕には認められぬ、不正の商人は何處の國にも居る、商業は正直で比較的安く賣ることが最も賢明な方法であるが何處の國の人間も目前の利に惑はされ易いものが見えて一時に暴利を貪らうとするのは困つたことだ。

之を要するに獨逸の今日の狀態を觀るに日本としては獨逸に眞似るべきことゝ眞似るべからざることゝある、物事の性質や種類に頓着なく眞似をするのは所謂猿眞似であつて人間の眞似るべきことではない、物質的文明の點では概して學ぶべき點が多いが而も國情が違へば必ずしも眞似ることが出來ぬ、物質的文明の發達のためには多くの場合多額の費用を要するものであるから國家や國民の經濟狀態を考慮しないで徒らに眞似ることも出來ぬが成るべく早く眞似ることが出來れば結構である。精神的方面では獨逸人の規則的に行動すること、勤勉であること、長幼に序あること等は大に學ぶべき價值があると思ふ。

(大正十五年十二月初寄稿)

太平洋上より

加 美 好 男

十四日に午後三時無事出帆(横濱)しました、十八日迄は船酔でベットに寝たまゝ食事せずに水と牛乳ばかりで暮しました、其後は大分慣れてノルマルにやつて居りますが朝食は抜です、邦人は五人しか乗つて居りません。然し其方が結局良好です、西洋人の「カスタム」にも慣れるし、五人ですから御互の親密

さも大變なものです。ビヤース會で云ふのを五人で組織しました、何れ三四年後には皆で東京へ寄つて例會をつゞけよう云ふ理です。毎日の洋食ぜめには大閉口です、胃袋が大恐惶を來して居るらしいですね。

大分ハイカラをやるのに慣れて來ました、ボーイは支那人で少し日本語の片語が判ります、例ばユー、ソー、タベルとやつて來ます、ベットに寢て居りますね（食事時間に）之を食べませか云ふ事なんだね、此調子にです。毛唐だつて大した事はありません、只船の酔丈には大閉口しました、洋行も一寸苦しい思ひもあります。明日は早朝グイクトロ著一寸見物して午後二時頃シャトル上陸の筈です愈々上陸の日が來て心が潔立ます、米國見物は二週間で切り上げて直ぐハンブルグに向ひます……。

太 西 洋 上 よ り

米國での滞在が非常に延びて廿三日迄居りました米國一つだけでも裕に一年を費す値はあると思ます。殊に僕等學問を主とせず技術を主とする人間には一層感が深い様です。今は既にウインの人であらねばならねばならぬのを自分勝手に二十三日の船迄延しました、其間大分米國と云ふものが判つた様に思はれます。一週間位では何も判りません、ボストン、ワシントン、と各四、五日宛を費した後はニューヨークに居りました、理屈の國は英、獨でせう、實際の國は米國です、そんな小さな事でも又大きな事でも必ず金をかけて實際にやつて見るのが米人です、金にいさひが無いものですからね、それで米國でなければ見られないものが澤山にあると云ふ事です、歐洲を踏まねば僕も確かな批判を下す事が出来ませんがそんな様な氣もします、コンブレート、ドライの國は僕等の様な呑まない人間にも面白くありません、自然を壊して居て人情味が甚だしい様です、二十四日午前十二時一分と云ふかつきり二十四日になつた瞬間にニューヨークのビヤースを離れました、此れで當分米國の土地も踏めない事でせう。船は獨逸のですから乗船して出帆すると直ぐ旨いビールが飲めます、日本の旨かつたですけれと日本以來ビールを味はなかつた自分には大變旨く思ひます、毎日五六杯のグラスをあけて居ります、一杯が十錢です(米貨の)船の中

ですから高いのは止を得ません、大西洋航路は全く公道で毎日一つ位は少くも汽船に出會す、太平洋では決してそんな事はありませんでした、歐洲と米國との交通も之に依つて承知が出來ませう、それに船は全部大きなものばかりです、僕の今乗つて居るのは小さい方ですが二万噸以上あります、之れでハンブルグ迄九日かかる相ですから來月一日頃には獨逸の地が踏める事でせう。途中英のサウスアンブトンと佛デエブシへ寄つて行く相です。……原田先生とは何れベルリンで御遭ひします、其頃は八木君もベルリンでせうから三人で同窓會を開く積です、地球も割合に狭いものだと思ひますね、知り合ひの顔が到る所で遭へるさはね。

來月の五日頃にはウインに行きます、而して少くも二月は滞在します、日本の事はさつぱり判りません新聞には日本の事なんぞ殆ど出ません、小國だと思ふ事も之で判ります、そんな小國で威張つて居る偉い人達が可笑しくなつて來ました、洋行中の考へを瞬時も忘れずに日本へ歸つてからも持つて居れば屹度大きな仕事が出るだらうと痛切に感じて居ります。ウインへ落付いたら日本の事も少しは判るかも知れんと思ひ早く行き度く思つて居ります、それにホテル生活にもあきました、下宿生活が早くやつて見度くなりましたからね、出来る丈長く此方に居たい積りで居ります。ベルリンでは相當勉強が出來様かと思つて居ります。折角來たのですから偉い人達に教つて行きます。ヘルツォグ先生へは米國在任の有名な化學者(獨人)から紹介狀を貰ひましたから多分教へて呉れる事と思ひます。……(以上は今渡歐中の加美氏より母校職員 N 氏宛に宛送れる手紙より一部抜書致したのです。 以上